

広島県ジュニア体操競技選手権大会

クラスⅠ 男子 適用規則（2013年改訂版）

I 体操競技の本質に照準をあてながら、将来に繋がるジュニア期の選手という点を十分に考慮し、常に「美を競う」という観点で採点する。また、演技が美しくのびのびと正しく行われているか、その演技実施の習熟度を評価する。

さらに、演技の良い部分に対しては、積極的に加点する。

- ・「姿勢の美しさ」
- ・「動きの美しさ」
- ・「技の正確性」

II 安全性に対する注意は常に十分になされなければならない。

- ・演技内容は選手の能力に相応していなければならない。
- ・演技は理にかなったやり方で、美しくのびのびと実施されなければならない。
- ・選手は、技術的に不完全で安全が保障されない技を無理に行ってはいけない。

1 得点の構成および難度要求

①技の難度にとらわれることなく演技実施を重視した評価をする。

②ゆか、鉄棒、つり輪、平行棒の演技は次の配点により構成される。

| 【ゆ か】 | | 【鉄 棒】 | |
|-------|----------|-------|----------|
| 難 度 | 3. 0 0 | 難 度 | 2. 4 0 |
| 特別要求 | 1. 5 0 | 特別要求 | 1. 5 0 |
| 加 点 | 0. 5 0 | 加 点 | 0. 5 0 |
| 実 施 | 5. 0 0 | 実 施 | 5. 6 0 |
| 合 計 | 1 0. 0 0 | 合 計 | 1 0. 0 0 |

③ゆか、鉄棒において次の技数を要求する。

- ・ ゆか 10 技（1 技につき $0.3 \times 10 = 3.00$ ）
- ・ 鉄棒 8 技（1 技につき $0.3 \times 8 = 2.40$ ）

技不足に対する減点は、1 技につき 0.30 である。ただし、現行の難度表に記載されていない基本技についてもジュニア選手の健全な発展を考慮し1 技として数える。

＊難度表に記載されていない技の例

ゆ か 【ロンダート、前転、後転、開脚前転・後転、等】

鉄 棒 【逆上がり、足かけ上がり、棒下振り出し、等】

④技の認定と繰り返しについて

- a) ゆか、鉄棒、において同一技は2回（1回の繰り返し）まで価値部分として認める。
- b) 同一技が3回以上実施された場合は、3回目からは価値部分として認定しない。
ただし、繰り返しに対する減点はしない。同一技が3回以上連続された場合も同様に減点しない。
- c) 難度表の同一番号の技であっても、姿勢などが異なるものは別の技とする。
（抱え込み、屈身、伸身 など）
- d) 鉄棒において構成上必要な停止・中間振動は、それが正しい技捌きで美しい姿勢により実施された場合は減点の対象とはしない。また、演技として実施しようとしていることが認められた場合、鉄棒における「懸垂前振り～懸垂後ろ振り（またはその逆）」、減点は、適用しない。尚、鉄棒における片逆手・逆手（大逆手・片大逆手を含む）懸垂の場合は、懸

- 垂前振りもしくは懸垂後ろ振りのみでも1技として数え、特別要求②を満たす。
e) 同一要求グループから4技をこえても難度（技数）として認める。

例

1. 棒下振り出し～懸垂後ろ振り上がり支持→2技
2. 棒下振り出し～懸垂後ろ振り～懸垂前振り～け上がり又は懸垂逆上がり→3技
3. 支持～後ろ振り出し～懸垂前振り～け上がり～支持後ろ振り～後ろ回り→2技
4. 後ろ回り～支持後ろ振り～後ろ回り→2技
5. 後ろ回り～支持後ろ振り～足裏回転振り出し下り（グライダー下り）→2技
6. 支持～後ろ振り出し～懸垂前振り～後方宙返り→1技

* 難度表に記載されていない技の例

- ゆ か 【ロンダート，前転，後転，開脚前転・後転，等】
鉄 棒 【逆上がり，足かけ上がり，棒下振り出し，等】



- 鉄 棒 【逆上がり，足かけ上がり，棒下振り出し，振り（支持）跳び下り（前・後ろ）等】

2 特別要求

演技は、次の要素を含んで構成しなければならない。

- ・床，鉄棒は，5種類の要素を要求する。1つ欠けるごとに0.30の減点となる。
- ・つり輪，平行棒は，3種類の要素を要求する。1つ欠けるごとに、0.50の減点となる。
- ・採点規則2013年版の要求グループの枠を越えて各要素を認めることができる。
ただし，1技で2つの要素を満たすことはできない。

a) ゆ か

- ①前方系のアクロバット技
- ②後方系のアクロバット技
- ③片脚上でのバランス技（2秒静止）
- ④倒立静止（2秒静止）
- ⑤柔軟性を表現する技

b) 鉄 棒

- ①順手懸垂技
- ②逆手・片逆手懸垂技
- ③懸垂振動および支持回転でのひねり技
- ④鉄棒に近い技
- ⑤終末技

3 円馬の採点

- a) 閉脚の両脚旋回10回で行う。
(閉脚旋回を主体として開脚旋回などを行った場合でも減点はしない。)
- b) 演技開始は，正面支持から行い，正面支持までを1回とする。
- c) 回数不足は，1回につき0.5の減点とする。

- d) 落下減点は、0.30とする。
- e) 10回を超えた場合の減点はしない。ただし、回数にも数えない。
- f) 10回の旋回で10.00とする。

4 加点（円馬・跳馬以外の種目）

- ①0.50まで与えることができる。
- ②優れた演技構成に対して最大0.20まで与える。
- ③熟練性として最大0.30まで与える。熟練性に対する加点は、以下の要素から考慮される。
 - ・姿勢の美しさ
 - ・最大限の振幅を利用した振動技
 - ・卓越した雄大さ
 - ・演技全体を通してのリズミカルな動き
 - ・安定した着地

5 跳馬の採点

①跳馬においては、以下の表のようにそれぞれの跳越の基礎点を定める。

a) 前転とび（ヤマシタとび）群

- ・台上前転・・・・・・・・・・・・・・・・・・8.60
- ・前転とび・・・・・・・・・・・・・・・・・・9.00
- ・前転とびひねり・・・・・・・・・・・・・・・・9.10
- ・前転とび1回ひねり・・・・・・・・・・・・9.30
- ・前転とび3/2ひねり・・・・・・・・・・・・9.50
- ・前転とび前方宙返り・・・・・・・・・・・・9.50

b) ツカハラとび群

- ・かかえ込みツカハラとび・・・・・・・・・・9.30
- ・屈身ツカハラとび・・・・・・・・・・・・9.50

c) 開脚とび・屈身とび

- ・開脚（閉脚）とび・・・・・・・・・・・・8.00
- ・抱え込みとび・・・・・・・・・・・・8.60
- ・屈身とび・・・・・・・・・・・・8.80
- ・伸身とび・・・・・・・・・・・・9.00
- ・伸身とび1回ひねり・・・・・・・・・・・・9.20

②安定した着地や、優れた跳越に対して0.50までの加点を与える。

a) 美しい実施に対して

b) 着地が止まることに対して

a)とb)合わせて0.20までの加点

c) 勢いのある元気のいい実施に対して

d) 突き手の効いた大きな跳躍に対して

c)とd)合わせて0.30までの加点

③距離や馬体軸からの外れに対する線は引かない。しかし、飛距離および馬体軸からのずれに対する減点はある。これらは、競技会のレベルを考慮し審判員が判断する。

6 補足

◇中学生適用規則に準ずる。禁止技を含む。

- ①その他の規則は2013年版採点規則に準じる。
- ②競技方法は（男子4種目）自由演技。
- ③鉄棒においてマットを重ねることによって高さを調整することを認める。
マットを重ねることに対する減点はしない。
- ④器械器具について
 - 円馬：高さ約60cm（±10cm）
 - 跳馬：高さ110cm
 - 鉄棒：高さ2m55cm

広島県ジュニア体操競技選手権大会 クラスII 男子 適用規則（2013年改訂版）

- I 体操競技の本質である「美を競う」という観点を基本方針とする。
 - ・「美しい体操を身につける」
 - ・「基本的な技の習熟を図る」
- II 安全性に対する注意は常に十分になされなければならない。
 - ・選手は、技術的に不完全で安全が保障されない技を無理に行ってはいけない。

自由演技の採点

2013年度版中学校男子適用規則に基づく。

- ・ただし、跳馬=高さ 1.25m 鉄棒=高さ 2.55m

広島県ジュニア体操競技選手権大会 クラスIII 男子 適用規則

- I 体操競技の本質である「美を競う」という観点を基本方針とする。
 - ・「美しい体操を身につける」
 - ・「基本的な技の習熟を図る」
- II 安全性に対する注意は常に十分になされなければならない。
 - ・選手は、技術的に不完全で安全が保障されない技を無理に行ってはいけない。

自由演技の採点

- ☆ 「平成25年度高校男子体操競技適用規則」を適用する。